

授業の具体的展開例

- T : できた人はどうしてそのテープ図にしたか、友だちに説明できるようにしてください。
- C 1 : けんたくんのアメを長くしました。なぜかという、けんたくんは24こでりえさんは分からないのでけんたくんを長くしました。どうですか。
- C 2 : りえさんのアメの方が多いので、りえさんを長くしました。けんたさんは、3こ少ないので短くしました。
- T : どっちがいいと思う。理由も言えるといいな。
- C 3 : 私はC2にしました。文で、「りえさんのアメより」を消すと「けんたくんは少ない」になって、りえさんが長そうだから、こうしました。
- T : 2つのテープ図を見て、りえさんのアメの方が多くなっているのは、どっちかな？
- C : C2の方です。
- T : なるほど。では、テープ図を使って式を作ってみましょう。説明も書きましょう。
- T : では、どんな式にしましたか。式と答えを発表しましょう。
- C 4 : $24 + 3 = 27$ です。
- C 4 : 答えは27こです。
- T : 他の式にした人はいますか。いなければ、どうしてその式にしたのか、理由の言える人。
- C 5 : 2番目のわかっていることで、けんたさんのアメは少ない。だから、りえさんのアメは多くなるからたし算だと思いました。
- C 6 : ちがいは3こで、りえさんが分からないから、3こ足しました。
- T : もう少し、くわしく言える人はいませんか。
- C 7 : りえさんのアメは□こで、ちがいの3こをつけると・・・。
- T : 何につけましたか。
- C 7 : 24こにちがいの3こをつけるから、たし算になりました。

「活用」の力を育てる評価の視点

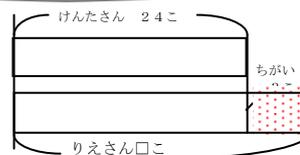
本時では、「～は～より多い、少ない」という言い方を正確に理解し、演算決定することが大切である。また、テープ図をかくことで場面把握が行いやすくなる。そして、児童が発表する際に、相手に分かりやすいように説明する力も伸ばしたい。

「活用」の力を評価する具体的な観点としては、

- ①文章問題を読み、場面を理解し、テープ図にまとめ、立式して、答えを求め、自分の考えを説明することができる。
- ②文章問題を読み、テープ図にまとめ、立式して、答えを求めることができる。
- ③気付いていなかったことが、説明を聞き、理解することができる。
- ④説明を聞いても理解できない。

が考えられる。④の状態の児童には、十分な個別対応が必要である。①或いは②の状態になるように、「～は～より多い、少ない」という言い方について丁寧に扱いながら、適応問題の場面を充実させたい。

児童のワークシート例



$$24 + 3 = 27$$

答え 27こ

けんたさんのアメのテープ図に、ちがいの3こ分をくっつけるとりえさんのアメのテープ図と同じになるから、たし算にしました。

板書例は
こちら

CLICK

本時の流れへ

評価問題

単元の流れへ

HOME